

○搬出搬送責任者

- 搬出のための搬送班と搬送手段（車両、担架、レスキューカー）の確保
- 搬出指示
- 搬送者の安全確保

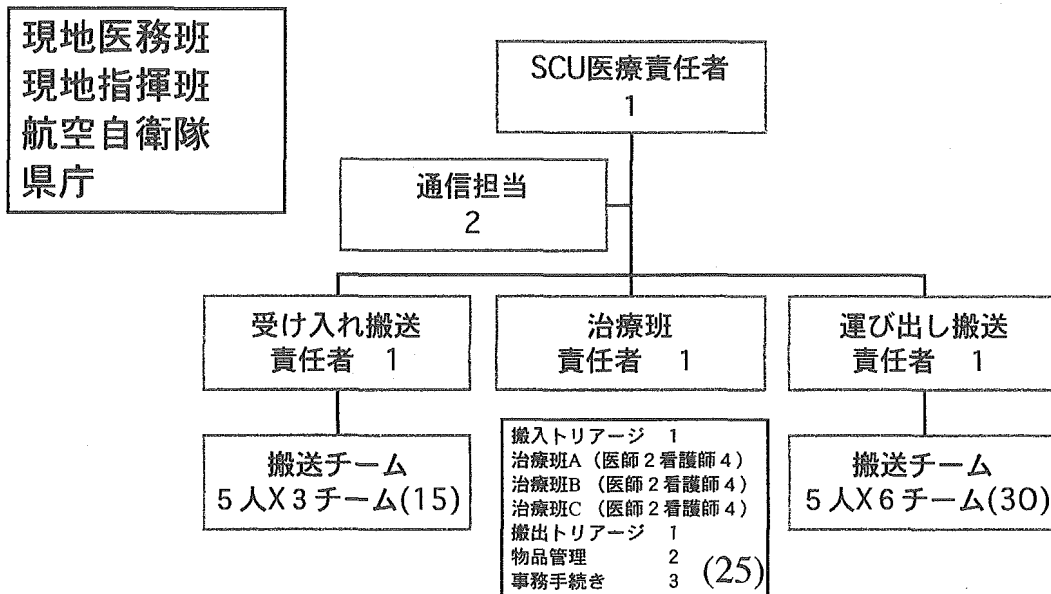
○治療班

- 傷病者の観察と治療
- カルテへの記載
- 搬出時に搬送担当看護師へ申し送り

○搬送チーム

- 航空機からの安全な積み降ろし、積み込み
- 安全な搬送
- 確実な医療情報と物品（カルテ、搬送票、前医の資料等）の伝達（看護師）

SCU医療組織図



5) S : 安全の確保

航空機への接近の際の安全の確保

担架搬送の方法

搬送手段での安全な搬送

航空機への安全な積み込みと固定

夜間や雨天時等の対応

6) C : 通信・連絡

通信手段の確保

a)外部（緊急対策本部、現地対策本部、県庁など）への通信手段の確保

衛星携帯の使用法

防災無線の活用

連絡すべき本部一覧（別紙）

b)域内での連絡

トランシーバーの通信法

トランシーバー配置例

基地における通信ポイント（例）と通信手段

例) 自衛隊航空機コントロール（処理隊）

防災ヘリ等コントロール（ヘリ指揮本部）

7) A : 活動評価と調整

SCU内の傷病者は適正か

搬入される傷病者の重症度と数は適正か

搬出するための航空機は十分か

SCUの医療資器材、医療材料、酸素薬品は適正か

基地内搬送の交通手段は十分か

隊員の疲労度（特に搬送班）は問題ないか

医療スタッフ数が適正か

医師の活動マニュアル

任務

- 1) 傷病者の安定化
- 2) 広域搬送トリアージの実施（搬送適応・非適応患者の判断と優先順位の決定）
- 3) 搬送のための準備
- 4) 航空機搭乗者（機長、ロードマスター、搭乗医療チームなど）への医療情報の伝達

1) 傷病者の安定化

ひとたび航空機に搭載すると十分な診療ができないため SCU において傷病者を安定化する必要がある。安定化には気道（A）の安定化、呼吸（B）の安定化、循環（C）の安定化、意識（D）の安定化、環境因子（E）の安定化に分かれる。ただし、航空機内では十分な医療資器材がないため安定化のための治療内容は十分配慮が必要である。（例えば筋弛緩剤の使用、人工呼吸器の使用など）

Aの安定化：器具を用いた気道確保（気管挿管など）、気管内吸引など

Bの安定化：酸素投与、胸腔ドレナージ、陽圧換気など：SpO₂ モニター

Cの安定化：大量輸液・輸血、止血術、シーツラッピングなど：血圧、尿量、超音波

Dの安定化：浸透圧利尿剤など：意識レベル、瞳孔、麻痺

Eの安定化：保温、ガーゼ被覆など：体温

○特殊な病態への対応

クラッシュ症候群：高カリウム血症や筋毒性物質による急性腎不全にたいする治療が必要であり、大量輸液、利尿剤などによる尿量維持、高カリウム治療、不整脈監視・早期除細動が必要となる。

2) 広域搬送トリアージの実施

広域搬送トリアージは傷病者の緊急度、重症度、安定化治療の完了度、安定度などを総合的に判断し、搬送に用いる機種（C1、CH47、中型ヘリコプター、ドクターなど）や推定飛行高度、行き先、医療機関までの到達予想時間などのさまざまな情報をもとに搭載順位と搭載機体を最終決定するきわめて高度な医療判断である。搬出トリアージ医

師が実施し治療責任者・SCU責任者の最終判断を仰ぐ。広域医療搬送適応基準と優先順位判断基準、不搬送基準は別紙の通りである。

○広域医療搬送適応基準と優先順位判断基準（別紙参照）

○広域搬送不搬送基準（別紙参照）

3) 搬送のための準備

広域搬送に用いる自衛隊輸送機C-1の飛行高度は15000～30000フィート(5000～10000メートル)が想定されており気圧は0.8～0.9気圧(機内高度1500m-3000m)となる。緊急減圧の場合はさらに気圧が低下する。そのため上空では空気が膨張し有害な事象の発生が予想されるため事前の医療処置が必要となる。また浮腫の増強や振動により疼痛が悪化する可能性があるためシーネ固定や鎮痛薬の投与が必要となる。

予想される事象とその予防処置

○気胸の悪化：胸腔ドレーンの挿入

○胃の膨満、嘔吐：胃管の挿入

○挿管チューブカフの膨張：カフ空気を蒸留水に置き換える

○四肢骨折：シーネ固定、鎮痛薬

4) 航空機搭乗者（機長、ロードマスター、搭乗医療チームなど）への医療情報の伝達および情報収集

間断なき医療の継続と安全な医療搬送のためには航空機搭乗者への医療情報の提供は重要である。

○機長、ロードマスターとの情報収集、情報提供

予想される飛行高度や飛行時間、医療機関への到着予定時刻は傷病者選定のための重要な情報となる。また患者の状態特に呼吸状態は飛行高度を決める重要な因子となる。患者の状態に合わせた高度や与圧のリクエストを事前に機長や

搭乗クルー行うのも医師の役割である。

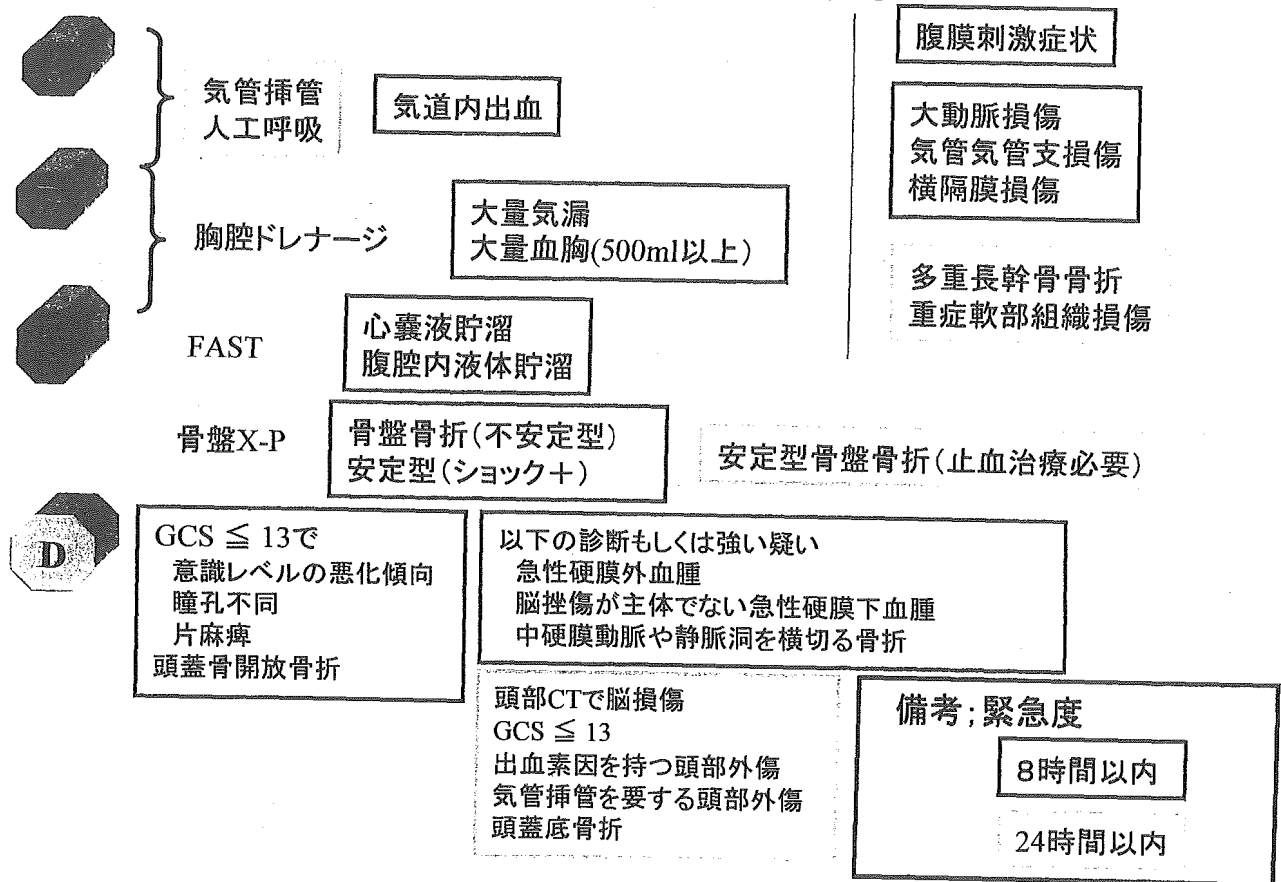
○航空機搭乗医療チームとの情報収集、情報提供

機内で使用できる医療資器材の種類、数、特に人工呼吸器の有無や数に関する事前情報は、傷病者搬送トリアージの重要な情報である。

事前の患者の状態、バイタルサイン、治療の内容、搬送中に予想される事象や対象のアドバイス（たとえば高カリウム血症による不整脈の危険があるため心電図モニターの監視と除細動の準備）もSCU医師の責務である。

災害時広域搬送適応基準と優先順位判断基準

Primary survey + α のみで決定する



不搬送基準

四肢体幹外傷

FiO2 1.0下の人工呼吸で、SpO2 95%未満
急速輸液1000ml後に、収縮期血圧60mmHg以下

頭部外傷

意識がGCS ≤ 8またはJCS三桁で、かつ両側瞳孔散大
頭部CTで中脳周囲脳槽が消失

クラッシュ症候群

病院へ搬入されるのは発災後3時間以降

診断のポイント

- 長時間、四肢臀部を重量物で挟圧されたエピソード
- 患肢の知覚運動麻痺
- 黒褐色尿

注意！(クラッシュ症候群の早期では、多くの場合)

バイタルサイン安定
患部皮膚は肉眼的には正常
患部の腫脹を認めない
疼痛を訴えない

初期治療のポイント

急速輸液が最も重要な初期救命治療！

- 生理食塩水または乳酸リンゲル1000mlを全開輸液
- 膀胱カテーテル留置

利尿なし



緊急度A

輸液をさらに継続しつつ
直ちに広域搬送

利尿あり



緊急度B

輸液速度をゆるめ、広域
搬送の待機

SCU 看護マニュアル



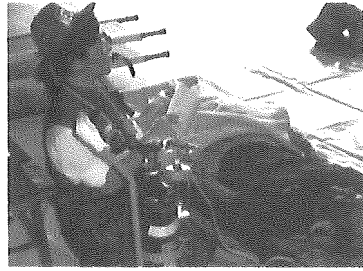



I. SCU の設置



1. SCU の規模はテント 3 張りを標準とし、1 テント内にそれぞれ 4 名の重症患者を収容し、計 12 名の患者の収容を標準とする。
2. SUC 担当看護師は 21 名で、
リーダー看護師 1 名、各テントのリーダー看護師 3 名、受け持ち看護師 12 名、
資機材管理看護師 1 名、搬入トリアージ看護師 1 名、搬出トリアージ看護師 1 名、
フリー看護師 4 名で構成される。
3. SCU が設置されたら、医師、調整員とともに全体でミーティングを行い、担当及び役割を確認する。
4. 受け持ち看護師は、域内担当 DMAT から引継ぎ、域外担当 DMAT へ引き継ぐまで 1 人の患者を受け持つが、各テント固定型とテント無関係順番制の 2 通りがある。

II. SCU 看護師活動の流れ

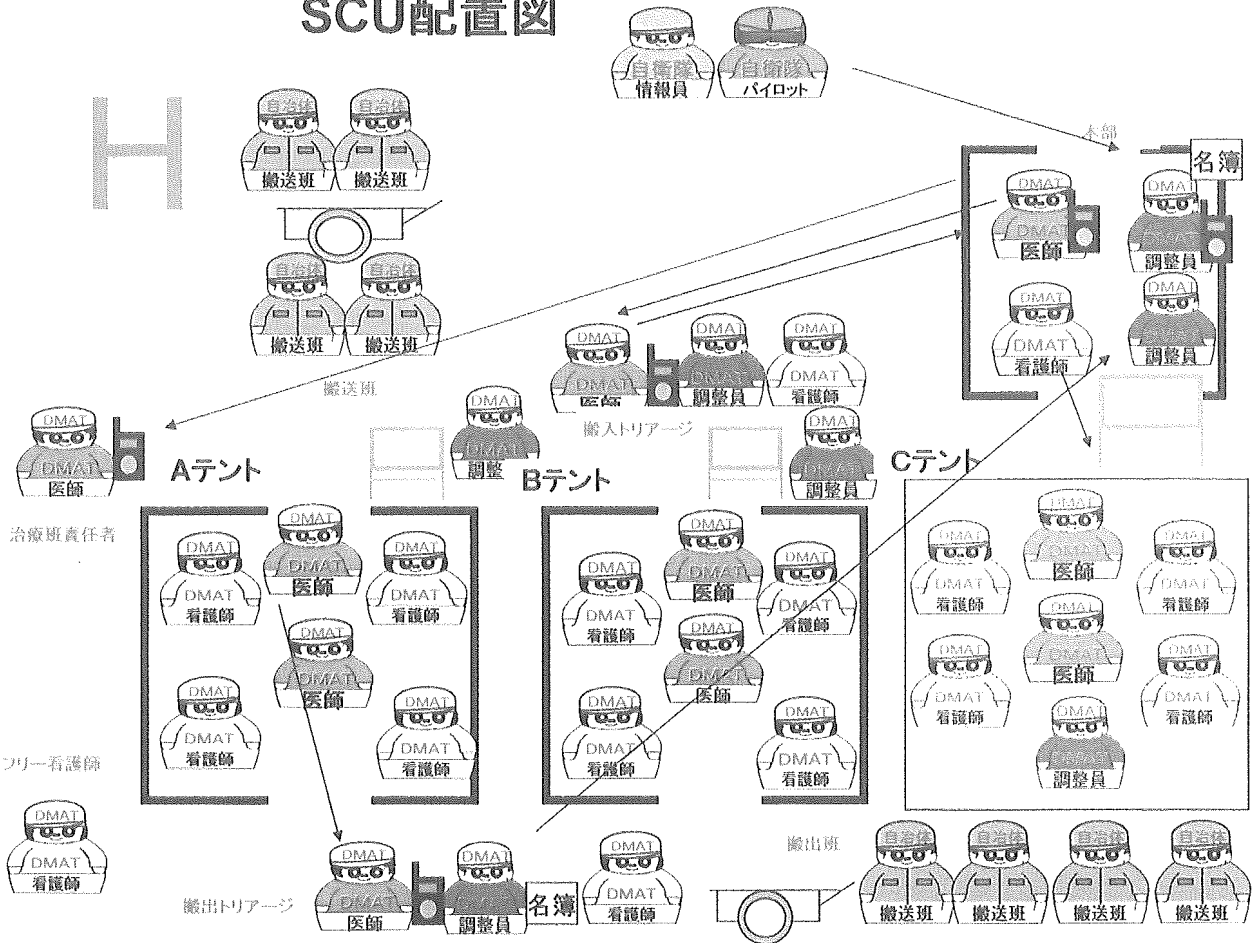
1. 拠点病院から搬送されてきた患者の申し送りを受け持ち看護師がヘリポートにおいて域内担当 DMAT から受ける。広域航空搬送患者医療情報伝達用紙（以後カルテ）に沿って情報収集を行うが、受傷時間と状況、被災地拠点病院で実施された処置内容、意識レベル、最終バイタルサイン、仮診断名、家族への連絡の有無を必ず確認する。
2. 患者を SCU へ搬送・着床後、患者の状態を観察（ソートによりトリアージ）し、医師へ報告する。必要な処置、治療があれば医師と協力して行う。
3. バイタルサインは到着時と退室時、SCU 滞在中は患者の状態に合わせ測定し記載する。
4. 時間経過で観察が必要な項目、点滴等は患者に合わせ項目を増やし記載する。
5. 患者に実施した処置、状態の変化は経時記録とする。
6. 退室時には患者の状態を再度観察し、SCU 内医師による重症度の判定と診断名と記載する。
7. 搬送順位が決定したら、患者をレスキューカーで搬送する補助及び搬送中の観察を行う。その際必ずカルテを持参する。（航空機内への搬送 1 人目の患者は搭乗者名簿と共に搬送される。搭乗者名簿の運用は別に記載）
8. 航空機の近くに設定された申し送りエリアで、域外担当リーダー医師（C-1 内、及び CH-47 内活動医師）へ申し送る。
9. 医師への申し送りが済んだら患者を機内へ搬送し、機内で担当看護師へ引き継ぐ。

Ⅲ. 各担当の役割

担当	内容	配置人数
搬入トリアージ	搬入トリアージ医師の介助、搬送（担架移動）介助、トリアージタグの確認、患者説明 	1名
搬出トリアージ	搬出トリアージ医師の介助搬送（担架移動）介助、搬出順位の確認、トリアージタグの確認、搭乗者名簿の確認、患者説明 	1名
受け持ち看護師	患者観察、再トリアージ、必要な処置・治療介助、急変時の対応、カルテの記載、患者への声かけ、リーダー医師・リーダー看護師への報告、患者説明（後方搬送について、行き先について）、搬送（担架移動）介助、域内からの引継ぎ、域外担当リーダー医師への申し送り、機内固定時の介助  	12名
リーダー看護師	本部での患者把握の調整（各テント内の患者把握、搬入・搬出トリアージ医師からの報告確認）、ホワイトボードの記入、看護師間の調整、資機材調整 	1名
テント内リーダー看護師	受け持ち看護師の決定、患者処置・治療介助のフォロー、急変時の対応、看護師・医師間の調整、調整員のフォロー、テント間の調整 	3名

<p>資機材管理看護師</p>	<p>資機材の管理・調整（資機材不足時は調整員にリーダー看護師・調整員に報告し、本部の指示を仰ぐ）点滴の管理、医療資機材の点検・管理、急変時の対応</p>		<p>1名</p>
<p>フリー看護師</p>	<p>搬入・搬出時の担架移動介助、患者処置・治療の介助、急変時の対応、患者への声かけ、資機材整理</p>		<p>4名</p>

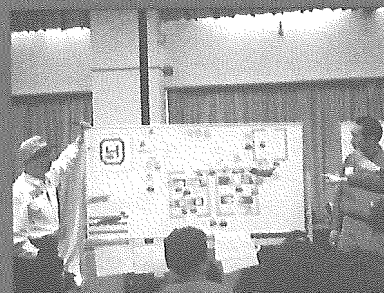
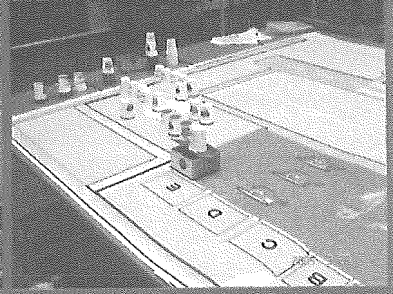
SCU配置図



SCU シミュレーション 日本DMAT隊員養成研修

看護師の達成目標

- ・政府・内閣府の広域医療搬送計画の概要が理解できる
- ・広域医療搬送の流れが理解できる
- ・SCUの機能・人員構成について理解できる
- ・DMATの活動について理解できる
- ・SCUにおける役割分担、組織づくりができる
- ・SCU内での自己の役割について理解できる



日本DMAT SCU看護師の活動

- 各施設の混合チームであり、組織づくりのためのリーダーシップ・メンバーシップの発揮
- 限られた医療資機材、水・電気の不足下での活動のため、消費を最小限に抑え、管理に努める
- 航空機搬送基準を熟知し、的確な処置・観察・記録・申し送り
- 脆弱な環境(騒音・風圧・気温・湿度・採光)のため患者負担の軽減に努める
- 予期せぬ状況下、見知らぬ土地への搬送、今後の治療に対する不安など危機的状態に陥っている患者へのメンタルケア



SCU 実践訓練 日本DMAT隊員養成研修

看護師の達成目標

- ・SCU内の物品・医療資機材管理と活用ができる
- ・SCUにおける情報管理ができる
- ・搬入・搬出搬送ができる
- ・SCU内での医療処置観察・記録ができる
- ・CSCATTTに基づいた活動ができる
- ・航空機搬送基準について理解できる
- ・自衛隊基地内の規則を遵守し、活動できる



業務調整員(ロジスティックス)の活動

業務調整員(ロジスティックス)の活動は大別して SCU-本部機能と SCU 医療業務機能に分けられる。

1, SCU-DMAT 本部機能

1) 活動場所の確保

- SCU設置にあたり、患者収容スペースとしての最低12床と、本部機能の場所を確保し、患者の搬入、搬出の経路を確保しなくてはならない。
- 場所の確保としては、SCUとなる飛行場等での患者搬入・搬出に利便のある場所となるが、気候の影響、夜間の活動を考えると、テントでの活動よりも建物内でSCUを設置できることが望ましい。
- テントの場合には航空機からの風の影響を考慮した場所の選定が必要となる。
- SCU内で必要とされる電気、水道、照明等の確保が必要であり、テントでの活動やライフラインの途絶の場合には、発電機、燃料、照明器具、飲料水の携行等による確保が必要となる。
- 隊員の食事・仮眠等の休息スペース及びトイレの確保も必要である。

2) 通信の確保

- 通信は、外部との通信と域内での通信を確保しなくてはならない。
- 外部との通信は、関係機関等との連携に必須であり、電話の不通を考慮した機器の確保をしなくてはならない。
- 基本としては、SCU設置施設内でのホットラインとしての固定電話の確保であり、FAX、インターネットの環境があれば理想である。
- 電話回線の途絶に際し、衛星電話を必須とする。
- 域内での通信は、飛行場や自衛隊基地内の場合では航空機のコントロール部門との連携、DMAT隊員間での連絡に必須である。
- 飛行場または自衛隊基地内では、内線電話の活用が航空機のコントロール部門との通信手段に理想であるが、内線の活用が不可能な場合には、無線機の使用となり、トランシーバー等の、周波数、チャンネル、コールサインの確認が必要である。
- 基地内での自衛隊等との通信には、自衛隊担当者のSCU内の配置を要求することが望ましい。
- DMAT隊員間での通信手段としては、各責任者へトランシーバーを配置する。
- 航空機待機名所での機内担当DMATとの通信には、トランシーバー等の無線機によることとなる。

- 機内担当DMATへの無線機の受け渡しは、調整員が受け渡しにSCUへ来るか、患者搬送担当者による受け渡しとなる。
- 3) 関係機関との連絡体制の確認・連携
- SCU本部が連携を必要とする関係機関は、下記の機関が想定される。
 - ・ 厚生労働省本部
 - ・ 被災県災害対策本部
 - ・ 自衛隊
 - ・ 飛行場関係者
 - ・ 航空機
 - ・ SCU内で活動する関係者
 - ・ 機内DMAT
 - ・ 他のSCU本部
 - ・ 被災地内DMAT本部
 - ・ 被災地外広域搬送拠点
 - ・ 域内ヘリ運行部門
 - ・ 被災地内での救急隊指揮本部
 - ・ 災害拠点病院
 - ・ 派遣元病院
 - 連携には、連絡方法(通信方法)、連絡先部門担当者、連絡先番号等の確認を行い、リストを作成して共有する必要がある。
- 4) 飛行場または基地内搬送手段の確保と動線の確保(車両等の確保)
- 患者の航空機からの搬入及び航空機への搬送の手段と動線を確認する必要がある。
 - 安全を考慮した動線とするため、飛行場または基地内の担当者との確認が必要。
 - 搬送手段として、レスキューカーまたは担架を用いた搬送が基本となるが、航空機までの動線が長い場合には、搬送用の車両を用いることが有用となる。
 - 車両の確保には、救急車が理想であるが、飛行場または基地内にあるトラック等の車両の活用も考慮し、確保する必要がある。
 - 搬送用の人員の確保が必要であり、自治体職員、飛行場職員、自衛隊員、DMAT補助要員、ボランティア、DMAT隊員等を要請して確保する必要がある。
- 5) 人員管理(要員確保、登録、配置、配置換え)
- 要員の確保は厚生労働省DMAT本部が行う。
 - 広域災害救急医療情報システムのDMAT関連ページの活用により、派遣可能施設、人員を把握する。

- 平時の準備として、各DMAT指定病院に事前に携行可能な医療資器材を把握する。
 - 参集にあたっては、厚生労働省DMAT本部が参集場所を指定し、空路または陸路によりSCUへ派遣する。
 - SCU本部担当の業務調整員は、参集したDMATの施設、隊員を確認し、SCUの活動要員としての登録を行うため、厚生労働省DMAT本部へ報告する。
 - SCU担当の統括DMATリーダーにより、各DMATのSCU内での担当を決定し、SCU本部担当業務調整員は登録する。
 - 機内担当DMAT、被災地外拠点におけるDMATの要員は厚生労働省DMAT本部において決定、配置し、SCU本部との連携を取る。
 - 隊員の活動期間は概ね48時間以内とし、適時交替できる要員を確保し、食事、睡眠、休憩を確保する。
- 6) 生活環境の確保(食料、飲料水、休憩場所、トイレ、宿泊場所等)
- 業務調整員は、SCUで活動するDMAT及び搬送要員等の生活環境の確保を行う。
 - 食糧は、基本的には自己完結型としているため、派遣時に自施設の隊員の活動予定期間(概ね48時間)の量を携行する。
 - 飲料水は、派遣時にSCUの環境を情報収集し、必要により相当量を携行する。
 - SCU活動にあたり、休憩場所、トイレ、宿泊(仮眠)場所の確保を行い、隊員に周知する。
- 7) 必要生活物資の調達(食料、飲料水等)
- SCU本部の業務調整員は、参集したDMAT隊員の携行した生活物資の量及び内容を確認し、想定される活動期間を賄うことが出来るか判断する。
 - 不足が予想され、補給が必要と判断したならば、DMATの後続隊に携行を依頼するよう厚生労働省DMAT本部へ報告する。基本的に被災者用の食糧の提供は受けない。
- 8) 医療物資(医薬品・医療資器材、酸素)の管理・補充
- SCU本部の業務調整員は、参集したDMAT隊員の携行した医療資器材の量及び内容を医師及び看護師と協力して確認を行い、想定される患者数及び傷病に対応できるか判断する。
 - 業務調整員は、活動中において医療資器材の管理を看護師、薬剤師の調整員と協力して行い、不足することのないように努める。
 - 不足が予想され、補給が必要と判断したならば、必要物品を厚生労働省DMAT本部または県庁衛生部局へ依頼する。
 - 医療資器材の補充は、次ぎの方法により行う。
 - ・ 後続のDMATチーム、機内DMATチームの携行により補充。

- ・ 近隣の日本赤十字社病院、国立病院機構病院、災害拠点病院等から補充。但し、基本的に被災地内からの提供は受けない。
- ・ 被災地外広域搬送拠点を物資等搬送拠点とし、機内DMATチームの管理により、航空機等によりSCUへ搬送する。
- ・ 厚生労働省DMAT本部及び被災地外搬送拠点の担当者は、被災地外広域搬送拠点に近い、日本赤十字社病院、国立病院機構病院、災害拠点病院等のDMAT指定施設は、必要物資等を調達して拠点へ搬送する。

9) 航空機の搬送計画の把握・連絡

- SCU本部の業務調整員は、広域搬送のための航空機の搬送計画を把握し、関係部署へ周知する。
- 航空機搬送計画で把握する必要のある項目は次のとおり。
 - ・ 離陸飛行場
 - ・ 離陸時間
 - ・ 航空機の機種
 - ・ 患者搬送可能人数
 - ・ 搬送先飛行場
 - ・ 搬送先飛行場到着予定時間(飛行時間)
 - ・ 搬送予定先病院

10) 隊員のSCU外への移動手段(車両など)の確保(基地外宿泊など必要時)

- 物資の調達や情報収集、宿泊等のためにSCUのある空港等から外への移動手段として、車両等を確保する必要がある。
- 車両にあつては、派遣に使用した車両または、近隣の日本赤十字社病院、国立病院機構病院等からの提供を受ける。

11) 隊員の空港等からの出入りの調整

- SCUのある空港等と外からの出入りにあたり、自衛隊基地等の場合には身分を証明する必要が生じるため、DMAT隊員の登録に基づき、出入りを行う者の一覧を作成出来る体制を整え、要求に応じて提出する。

2, SCU 医療業務機能

1) SCU内の備品設置

- SCU備品リストに基づき備品の設置を行う。

2) 受入予定患者情報の把握・連絡

- 域内へり、救急隊、被災地内DMAT等からのSCU患者搬入情報の把握・連絡を行う。

- 3) 患者受付
- 受け入れ患者の受付を行う。
 - 受付にあたっては、受入時間、氏名、性別、年齢、住所、連絡先、傷病名等を広域搬送用カルテの記載事項を確認し、記録する。
 - 受付を行った患者情報と収容したベッドNoをSCU本部へ報告する。
- 4) 収容患者情報の把握・連絡
- SCU本部の業務調整員は、SCU収容患者の情報を各担当者より報告を受け、一元的に管理する。
 - 患者情報には搬送トリアージ責任者からの搬送順位の把握が含まれる。
- 5) 航空機搭乗者名簿の作成
- 航空機搬送計画に基づき搬送患者が決定したならば、航空機搭乗者名簿の作成を行う。
 - 航空機搭乗者名簿の記載事項は次ぎのとおりとし、本部調整員は記載事項に漏れが無いかを確認する。
 - ・ No.
 - ・ 航空機名
 - ・ 搬送先空港
 - ・ 患者氏名、性別、年齢
 - ・ 傷病名
 - ・ 特記事項(医療上の注意事項等)
 - ・ 収容予定病院名(事前に決まっている場合)
 - ・ 離陸飛行場
 - ・ 離陸予定時間
 - ・ 機内担当DMAT名
 - 航空機搭乗者名簿は5枚複写とし、次の部門が管理する。
 - ・ SCU本部DMAT用
 - ・ SCU本部付都道府県用
 - ・ SCU本部付自衛隊用
 - ・ 機内DMAT用
 - ・ 機内自衛隊用
 - 機内DMAT用及び機内自衛隊用の航空機搭乗者名簿は、最初に航空機へ搬送する患者の申し送り者が機内DMATへ渡す。
 - 機内DMATは機内自衛隊用航空機搭乗者名簿により搬送予定患者を機内自衛隊へ報告する。

6) 航空機搬送記録の作成

- 搬送患者個々の航空機搬送記録を作成する。
- 航空機搬送記録の内容は次のとおりとする。
 - ・ No.
 - ・ 航空機名
 - ・ 患者氏名、性別、年齢
 - ・ 患者住所、連絡先
 - ・ 傷病名
 - ・ 離陸飛行場、離陸時間
 - ・ 着陸飛行場、着陸予定時間
 - ・ 搬送先
 - ・ 機内担当DMAT名
 - ・ 備考
- 航空機搬送記録は3枚複写とし、次の部門が管理する。
 - ・ SCU本部
 - ・ 被災地外搬送拠点
 - ・ 患者収容病院

7) 搬送患者情報の把握・連絡

- 収容患者情報を基に搬送に関する情報を一元的に管理する。
- 搬送に関する情報は、航空機搭乗者名簿の内容とする。
- 搬送患者の情報は、機内DMAT及び搬送先の被災地外搬送拠点へ連絡を行う。

8) 患者搬送の実施

- 搬送患者が決定し、機内への受入可能の指示があったならば、患者搬送を実施する。
- 患者の搬送にあたっては、航空機搭乗者名簿と照合し、指定された患者が指定された航空機へ誤り無く搬送されることを確認する。
- 搬送にあたっては、事前に搬送手段、搬送者を確認しておく。

9) 航空機及び機内DMATとの連携

- 搬送予定患者の適応の可否を判断するため、機内DMATの隊員構成、機内での携行資器材の確認を行い、搬出責任者へ報告する。
- 搬送患者の指定航空機への搭乗確認を機内DMATと行う。
- 航空機搬送にあたっての飛行上の注意点等がある場合には、パイロット及び機内DMATへ連絡を行う。

10) 航空機搭載資器材リストの作成

- 機内DMATの業務調整員は、航空機に搭載する資器材を把握するために資器材リストを作成する。
 - 航空機搭載資器材リストの内容は次のとおりとする。
 - ・ 航空機名・機番
 - ・ 所有施設名
 - ・ 資器材名称、規格、重量、数量
 - ・ 総重量
 - 航空機搭載資器材リストは4枚複写とし、次の部門が管理する。
 - ・ SCU本部DMAT用
 - ・ SCU本部付自衛隊用
 - ・ 機内DMAT用
 - ・ 機内自衛隊用
 - 資器材については、あらかじめ重量を確認しておく必要がある。
- 11) DMAT隊員航空機搭乗者名簿の作成
- 機内DMATの業務調整員は、航空機に搭載するDMAT隊員の搭乗者名簿を作成する。
 - DMAT隊員航空機搭乗者名簿の内容は次のとおりとする。
 - ・ No.
 - ・ 航空機名・機番
 - ・ 離陸飛行場、離陸予定時間
 - ・ 着陸飛行場、着陸予定時間
 - ・ DMAT隊員所属、氏名、年齢、体重、職種
 - ・ 備考
 - 機内DMAT隊員航空機搭乗者名簿は5枚複写とし、患者搭乗者名簿と同様の部門が管理する。
- 12) 各部門の連携
- SCU内の情報は本部を通じて業務調整員により各部門責任者へ情報提供を行い、共有化を図ることが重要である。
- 13) 活動の記録
- SCUでのDMAT活動の記録を行う。
 - 記録は患者情報とは別に、活動の記録を各部門で行い本部でまとめる。
 - ミーティング実施時には内容を記録する。
 - 記録は時系列で行い、デジタルカメラ、ビデオカメラによる映像の記録も行う。

14) 平成17年9月1日実施の広域搬送訓練における患者搬送計画

別紙 患者搬送計画(HT17.9.1広域医療搬送訓練)

被災地内広域搬送拠点		被災地外広域搬送拠点		搬送航空機		離陸 予定	到着 予定	※SCU使用欄						
都道府県	拠点名	都道府県	拠点名	機種	搬送患者数			No	患者氏名	年齢	性別	症状	搬送時の留意事項	
千葉県	下総航空基地	大阪府	大阪国際空港	C-1①	4	14:50	16:10	①						
								②						
								③						
								④						
		大阪府	関西国際空港	C-1②	4	15:20	16:40	①						
								②						
								③						
								④						
	東京都	立川駐屯地	CH-47	4	15:30	15:55	①							
							②							
							③							
							④							

15) SCU患者受付表

SCU患者受付表

No.	到着時間	氏名	性別	年齢	傷病名	順位	SCUNo.	ベッドNo.	搬送時刻	航空機	搬送先
1	13:23	コバヤシタカシ	男	48	クラッシュ	4	A	1	15:30	CH-47	立川基地
2	13:33	カザトカズヒコ	男	39	クラッシュ		B	1	14:50	C-1	伊丹空港
3	13:37	イノウエダイスケ	男	19	右気胸		C	1	15:20	C-1	関西国際空港
4	13:39	ウエノクミコ	女	21	広範囲熱傷		A	3	15:20	C-1	関西国際空港
5	13:41	アンビルキヨシ	男	36	急性硬膜外血腫	2	B	3	14:50	C-1	伊丹空港
6	13:42	イノウエコウジ	男	30	右足テロロヒンク損傷		C	3	15:20	C-1	関西国際空港
7	13:45	マツダノブヒサ	男	38	不安定骨盤骨折	1	C	2	14:50	C-1	伊丹空港
8	13:46	ホリトモノリ	男	24	腹腔内出血		B	2	15:30	CH-47	立川基地
9	13:49	ツチカワカズヤ	男	20	クラッシュ	3	A	2	14:50	C-1	伊丹空港
10	13:52	チバテルヒコ	男	20	両大腿骨骨折		C	4	15:20	C-1	関西国際空港
11	13:55	ヤナギサワユカリ	女	23	頭部強打		B	4	15:30	CH-47	立川基地
12	13:57	オノカツヤ	男	27	多発肋骨骨折・肺挫傷		A	4	15:30	CH-47	立川基地
13											
14											
15											
16											

16) 航空機搭乗者名簿(患者用)

航空機搭乗者名簿										本部用	
No. 1	航空機名	C-1				搬送先	大阪国際空港				
患者氏名 1	マツダノブヒサ	性別	男	年齢	38	傷病名	不安定骨盤骨折	特記事項	挿管中		
患者氏名 2	アンビルキヨシ	性別	男	年齢	36	傷病名	急性硬膜外血腫	特記事項	特記なし		
患者氏名 3	ツチカワカズヤ	性別	男	年齢	20	傷病名	クラッシュ	特記事項	特記なし		
患者氏名 4	カザトカズヒコ	性別	男	年齢	39	傷病名	クラッシュ	特記事項	特記なし		
患者氏名 5		性別		年齢		傷病名		特記事項			
離陸飛行場	下総基地				離陸予定時刻	14:50					
着陸予定飛行場	大阪国際空港				到着予定時刻	16:10					
同乗DMAT名	兵庫県災害医療センターDMAT										
備考											

17) 航空機搬送記録

航空機搬送記録						
No.	航空機名					
患者氏名		性別		年齢		
患者住所						
傷病名						
離陸時刻						
到着予定時刻						
搬送先						
DMAT						
備考						